

第1回志布志市松山地域学校統合準備委員会 会議の概要

1 開催日時 令和7年10月29日（水）
開会 午後6時30分 閉会 午後7時35分

2 場所 志布志市役所松山庁舎会議室

3 出席者 委員20名（1名Web参加）

4 欠席者 委員1名

5 出席した職員等

教育長	福田 裕生
教育総務課長	児玉 雅史
学校教育課長	淀 修司
総務施設G L	橋本 淳二
総務施設GSL	児玉 憲一
総務施設GSL	徳重 康成

※ 公開用議事録は、一部修正しております。

◇ 会議の要旨

1 開 会 (午後 6 時30分)

2 委嘱状交付

3 教育長挨拶

4 出席者紹介

5 志布志市松山地域学校統合準備委員会の設置規程について

＜事務局説明＞

6 報告

松山地域児童・生徒へのアンケート報告

＜事務局報告＞

委員 A

回答ができなかった児童生徒は、どういった内容なのか知りたい。例えば、不登校の児童生徒だと学校が変わるタイミングというのはチャンスなのではないか。そういう意見を聞き取れているのかお聞きしたい。

A 中学校

回答できていない生徒は不登校傾向の生徒もいるが、その後の聞き取りでは同じような傾向の回答と聞いている。新しい学校に関しても当然自分たちが中学校にいる期間ではないが、後輩、弟、妹含めたところで同じような回答が出ていたと聞いている。

B 小学校

単純に欠席である。アンケートに取り組むのが遅かった。欠席で答えることができなかったことが原因である。

C 小学校

B 小学校と同様。単純な欠席。受け取り方に担任によって確認不足があった。

委員 B

アンケートは、期待している声や楽しみにしている声は非常に多いが、その反面不安に思っている声がなかなか出しづらくなっているのではと感じた。アンケートが目的に即した質問になっていたか少し疑問に感じた。どのような考え方でアンケートを取ったのか。少数意見の吸い上げはどのように考えているか。

事務局

アンケートの意図は、児童生徒の率直な気持ちを確認したかった。集計する時間が短く、質問ごとに切り取ってまとめているので、児童生徒 1 人 1 人が質問 1 から 8 までの質問に対し、どういった回答をしているのか分かる資料も整理して

お示しする。不安に思っている児童生徒が、不安だけを持っているわけではなく、期待もあるが不安もあるといった回答となっている。次回までには、そういった箇所も見えるような形で整理して委員の方々にお示しする。個人的には、想像以上にワクワクしている、楽しみにしているといった意見が多かったと感じている。

7 協議（午後7時5分）

（1）志布志市松山地域学校統合準備委員会の基本的な考え方及び今後の進め方等について

＜事務局説明＞

委員 C

準備委員会では、令和11年3月まで継続して協議等を進めていくが、委員は代わっていく。節目においても代わってくる。引継ぎ事項、決定事項等をどのようにつないでいくのか。

事務局

松山地域の学校の在り方検討委員会と同様に、協議した議事の要旨は取りまとめて公表する。委員が代わるときに、事務局から説明して引継ぎをしていく。

（2）志布志市松山地域学校統合準備委員会専門部会について

＜事務局説明＞

委員 D

通学・制服・PTA部会の部員について、今後のことを考えていくと保育園園長、保育園保護者も入れた方が良いのではないか。

事務局

そのような視点もあることは認識している。1回目に関しては、この部員で部会を実施し、部員の方からの意見を伺いたいと考えている。部員でなければ参加できないというわけではなく、必要に応じて保育園の先生、保護者の方に意見を聞くといったことも可能である。

委員 E

制服がなくなるということはあるのか。アンケートでは自由服が良いという意見もあった。高学年になり、自由服になると女子は同じ服を着たがらない。

事務局

制服があれば便利であるといった意見があることも認識している。アンケートでは制服より自由服が良いといった回答があった。このことについては、保護者の意見が一番大事であると考えているので専門部会において協議を進めていきたい。

(3) 今後のスケジュールについて

＜事務局説明＞

委員 F

校舎建設工事があるが、校舎は新しくするのか教えてほしい。

事務局

校舎の整備は基本計画策定の業務を業者に委託している。基本計画の中で校舎の整備は決めていく。

委員 G

小学校の校舎は新築なのか。中学校はどのようにするのか。

事務局

業者と協議しながら今後検討していく。

(4) その他

委員 H

小学校跡地の利活用についての議論も、コミュニティ協議会の中で進めてもらいたい。学校跡地の利活用についての情報提供をお願いしたい。

事務局

松山地域の学校の在り方検討委員会の最終とりまとめの要望にもあったので、地域の機運、声は大事であることを認識している。地域での検討も進めていただきたい。総合政策課で学校跡地利活用検討委員会が立ち上がるでの委員への就任依頼があれば協力を願いしたい。

＜事務局より＞

南さつま市にある、金峰学園視察を計画している旨を説明。

委員 I

熱心な議論をしていただいている。松山地域の学校の在り方検討委員会の最終とりまとめを踏まえた考え方方が大事である。子供たちにとってより良い学びの場となるように検討すること、検討に当たっては保護者の意見を大事にすることが基本として「教育のまち松山」の構築を目指すことになる。そういう議論になっていた。

義務教育学校は今の時代の方向性を示している在り方である。柔軟な教育課程が作られているのがメリット。他の市町村でも義務教育学校が作られたり、作ろうとしている動きがある。それぞれの地域の実情、実態に合った学校になればと考えている。松山地域の学校がそれぞれの意見を踏まえて良い方向にいってもらいたい。

アンケートは、児童生徒の気持ちの把握が非常に大事である。前向きな回答が多かったが、少数意見の対応と方向性が大事である。

前向きな意見も多いが、不安感を持っている児童生徒への対応、行政としての方向性を示すことも必要である。

継承は委員が代わると難しい。委員が代わっても共有できる体制を整えることが必要である。

組織の在り方はその時々の状況によって変わる。部会の部員も議論を進めていく中で、ある会だけ別の方を呼ぶ、違う方を部員に迎えることも必要になる。

最後に、子供たちにとってのより良い学びの場となるような議論をしてもらいたい。検討の際は、当事者である保護者の意見を十分踏まえた良い学校をつくってもらいたい。

8 閉会（午後7時35分）